



釣客に

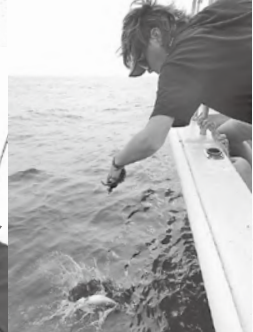
簡単に言ってしまえば、だれが、いつ、どこで、何を狙ってもよく釣れる



▲ヒットしたスマがギューーンと勢いよく疾走する  
◀バンブルズジグTG SLJで釣り上げたスマ



マダイにも効きます！



▲持ち帰らないときはフックを外して素早くリリース

◀マダイにも効く

……なんだけど、ジグはどうしても状況やターゲットに合わせ種類が増えてしまう。根魚ならコレ、青物ならコレ、シブイときはコッチ、活性が高ければコレ、といった具合にね。でもさ、せっかくタックルがライトになったのに、ジグが増えてタックルボックスが重くなったら本末転倒でしょう？

だからジグ選びもお気軽にしたかった。「コレ1本で幅広い状況に対応できて、様々な魚種が釣れる」というジグをガチで目指したんだ」

約2年もの歳月をかけ、日本各地で実釣テストを繰り返しながら、バンブルズジグSLJは完成した。

スッキリとシンプルな細身のシルエツトながら、よく見ると左右非対称だ。上から見て右側はほぼフラットながら、左側には膨らみが与えられている。しかも各部のエッジは非常にシャープと、複雑な形状だ。

素材は比重が高いタンングステンで、同じ重さなら鉛製よりもコンパクトに作れる。フォールスピードが早いというメリットもあるのだとか。

「タンングステンの強みで、細身で小さいんだ。だから食わせ力が強く、ただ巻き&フォールの

簡単な誘いでもOKだ。SLJは初めてというビギナーの方でもよく釣れるよ。

食わせ力が強いということは基本的に波動は弱め。でも、バンブルズジグSLJはレスポンスのいい形状になっているから、テクニクがある人の細かいロッドアクションにもしっかり追随する。だから、誘い方次第で波動を起こしてアピールすることもできるんだ。

本当にコレ1本で幅広く対応できる、最高の仕上がりになったよ！

簡単に言ってしまうと、だれが、いつ、どこで、何を狙ってもよく釣れる。今回の筆者が図らずも証明してしまったように、ほかのジグでは釣れなかったのにバンブルズジグSLJに替えた途端にヒット、ということも決して珍しくない。

## 何かが釣れるから楽しい！ 何かが釣れても面白い！！

この日、大原沖の魚たちは非常に活性が高く、広布号は大いに盛り上がった。

とくに歓声が高かったのは、複数のお客さんが良型のマダイ



▲オリジナルの広布号ジグで2.2キロのヒラメをキャッチ

もちろん、ほかにも釣れるジグはたくさんある。野島船長自らが開発した広布号のオリジナルジグも、よく釣れるジグとして高い人気を誇っている。実際広布号ジグで2.2キロのヒラメを釣ったお客さんもいた。各地で評判の「隠れた名ジグ」もあることだろう。

でも、ヨッシーを持ち上げるのは本当に悔しいのだが、バンブルズジグSLJが手堅く釣果を望める1本であることは間違いない。タックルボックスに忍ばせておいても絶対に損はない「鉄板の1本」なのだ。タンングステン製だけど……。

を釣ったときだ。タイラバ、そしてまさにバンブルズジグSLJに食ってきたマダイは、3キロ級だった。イワシを追う青物たちの下に、こんなビッグサプ